令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑥障がいのある子どもの理解

- ◆ 愛着はとても大事で、愛着形成が不全だと愛着障害など人との付き合いがうまく出来なくなる。小さい頃の親子との関わりがとても大切である。幼児期に大人と一緒に何かをするのが楽しいと感じる、知ることが重要であり、子どもと大人が良い関係でいることが大切。障害にもいろいろあり、障害によって接し方や関わり方もさまざまである。発達障害は環境がとても大事で、環境次第で楽しかったり苦しかったりする。障害についてきちんと理解し、子どもに寄り添っていきたいです。
- ◆ 講義の中で「人は人との関わりから人と関わることを学んでいく」という言葉があり、とても感銘を受けました。子どもと「良い関係」でいることがお互いの距離感や存在として安心し合えることを学び、仕事にもとても活かせる内容だと感じました。良かれと思い口を出しすぎず、子どもが「好きだな」と感じてもらえる存在でありたいです。障害があって苦戦していることを理解し、苦戦することが減る環境を整えてあげられる工夫や柔軟さを身に付けたいです。
- ◆ 子どもと良い関係を築けていないと危険な場面で注意を聞き入れてもらえないため、 普段から良い関係を築けるような対応をしていきたいです。障害のある子どもの生活が 過ごしやすくなるように、本人の意思やペースを大事にし、できる範囲で支援すること が大事だと感じました。障害がなくても子どもたちのペースは違うため、みんなが同じ ようにできるだろうと思わず、様々な子がいることを念頭に置き支援していきたいです。
- ◆ 障害についての基礎知識や特性、接し方、関わり方を学んだ。発達障害は特性であり優れた利点となることもあるが、社会不適応の原因になることもある。どちらになるかを支配するのは環境次第で、発達の二次障害にならないように早い時期から適切な支援を行うことが将来の自立と自己実現につながっていく。そのために専門家との連携や子どもの気持ちや保護者の気持ちを受けとめられるように継続して学習していくことが大切だと思った。
- ◆ 障害、困難さ、苦手さを抱える子どもの生活を整えるために大人はどうしたら良いか。 まずは子どもとの「良い関係」を築くことが大切だと学んだ。障害の特性を理解し、個々 に合った支援、配慮が必要とされるが、他の子どもと異なる特別な存在ではなく、同じ 子どもであるという視点が欠かせないことも理解できた。また、日常生活の中で障害の 有無に関係なく相互にふれ合う経験が、知らず知らずのうちに多様性を認め、受け入れ られるように育つのではないかと思った。